

師走に入り、寒さが厳しくなってきた。私は2人の息子がいる。25年も前のことだが、クリスマスを控えて街が活氣づいたこの時期、「サンタ」としてプレゼントを選んでいた。

達は、携帯型ゲーム機を持っているのが当たり前になつて庭にゲームは不要」と決めていたので、一度も貰い与えなかつた。小学生にはテレビやゲーム以外で退屈な時間を凌ぐ工夫を教えるべきだと考え、最後まで我慢させた。

しかし、成人してから聞いた話だが、親には内緒で図書券を使ってゲームの攻略本を買つては、友達の家で少ない機会を活用し、ひそかに腕を上げていたようだ。

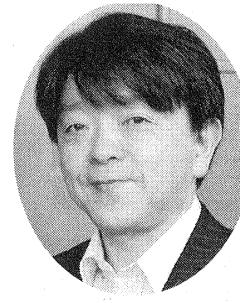
昨年、中3男子の進路相談で「クリスマスに、息子のりごもたちは寝床での読み聞贈りました。翌日『お母さん、高く売れたよ!』とうる年、「飛び出す絵本」を選

私見創見 Thursday

我慢のしつけ

畠山 篤

志学塾塾長



はたやま・あつし
1960年、八戸市生まれ。明治学院大卒。志学塾を運営しながら、全国各地で講演。「勉強部活」を提唱、放課後学習支援などに関与する。全国学習塾協会理事。

不自由さが子どもを磨く

て言葉がなくて…」と。「誕生日、クリスマスなどの記念も。

私は「子育てに我慢の日を作っていますか?」と助言しました。「ストレスではなく我慢、辛抱です。頑張ることを

『つらいけど、やり抜いたよ!』とお子さんが言ってくれた、うれしいですね。

私は「子どもの口実を許されたり、うれしいですね」。

わが家のしつけを積み重ねる慢し、工夫し、助け合う経験

は容易に習慣になってしまふよ。早く塾に行きなさい」と言える子育てがある。

子に我慢せることで、嫌う。

われわれ親の世代が子どもたちを育む環境は、まだ生活が不便な気持ちになるかもしれません。それでも詰め込み教育でもな

い。だが、子どもの口実を許す、与える喜びを辛抱し、家族も友達もみんなで我慢して大事なことを

再現してみる。合理的な方法

尾翼折れ機体バラバラ

住民ら怒り、抗議の声

米政府

情報公開し 反発に配慮

沖縄への配備維持

【ワシントン共同】米政

府

新型輸送機オスプレイの重

だ。移設に抗議活動を続

ける田仲宏之さん(44)はオス

プレイの安全性が以前から

懸念されていたことに触れ

て起きたべくして起きた事

故。普天間でも辺野古で

も、危険性は全く変わらな

い。人が生活する地域に配

組み、地元の反発に一定の

配慮を示したとみられる。

ちぎれたプロペラ、折れた尾翼。不時着したオスプレイは胴体部分がバラバラに大破し、海面で無残な姿をさらしていた。事故から一夜明けた14日、沖縄県名護市の海沿いにある岩場には機動隊員と米軍関係者ら数十人が立ち並び、規制線を張った。周辺を基地反対派の住民らが取り囲むなど、怒りと抗議の声が広がった。

名護沖オスプレイ大破

は波に流れ、岩場に乗り上げていた。迷彩服姿の米軍関係者らが、1~2人が

周辺でも住民らが抗議。付近の東村高江に住む伊佐育子さん(56)は「住民は常に墜落の恐怖にさらされている。いつ犠牲者が出るか分からない」と話した。

今年1月の米議会調査局の報告書によると、米軍は沖縄県の尖閣諸島に外部からの侵攻があった場合に普天間を前方展開基地として位置付け、オスプレイを運用すれば「反基地感情が高まり、同盟関係に深刻な問題を生む」と指摘している。沖縄では12月、訓練でオスプレイが何らかの物体をつり下げて民家の上空を運行飛行し、不安が広がっていた。

米軍は事故原因の調査を進めおり、カービー氏は「結果が判明すれば公表する」と説明。事故翌日の14日、在沖縄米軍トップの二

人、羽田空港で記者会見した。一番印象深かった出来事として、ノーベル財團の創設者会見を開くなど、情報

記者会見を開くなど、情報

調査した。一方で報告書は、オスプレイが絡む事故が沖縄で起きれば「反基地感情

が高まり、同盟関係に深刻な問題を生む」と指摘して

(69)

大隅さん

ノーベル賞授賞式を終え

年

公

物

に

併

井伊

虎は

の新

日、

と併

虎は

の重

年

公

戦

に驚いた時代から情報通信

技術の便利な時代になり、親

は子育てを感じるより、シス

テムに頼って大事なことを

見て落としているかも知れない。

目新しい「飛び出す絵本」

に驚いた時代から情報通信

技術の便利な時代になり、親

は子育てを感じるより、シス

テムに頼って大事なことを

見て落としているかも知